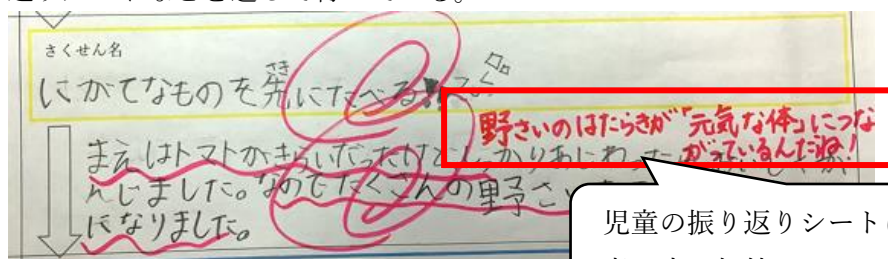


視点3 次への学習や実践意欲につながる学びの振り返り（自己とのかかわり）

① 振り返りの目的や視点の明確化と位置づけ

自己の学びを見つめ直し、課題を解決できた要因や自分の生活にどう生かせるかを考える場を設定し、児童が自身の生活に生かすことができる力を育むために、「メタ認知」の考え方を生かした振り返りの価値づけを行っている。例えば、第2学年学活科「野さいのひみつ」では、振り返りシートに「たくさん野菜をたべたら元気になりました。」という考えを書いた児童に対し、「野菜のはたらきが元気な体に繋がるんだね。」と、家庭科の「栄養を考えた食事」の学習に繋がるコメントを記入した。「元気な体」は、家庭科の見方・考え方の視点である「健康」につながる視点であり、教師の価値づけによって、児童は、「元気な体をつくれた」という満足感や自己の成長を認識し、「元気な体」というキーワードを大切にしながら、思考していくようになる。低学年時から、家庭科の見方・考え方の素地作りを意識した指導を、振り返りカードなどを通して行っている。

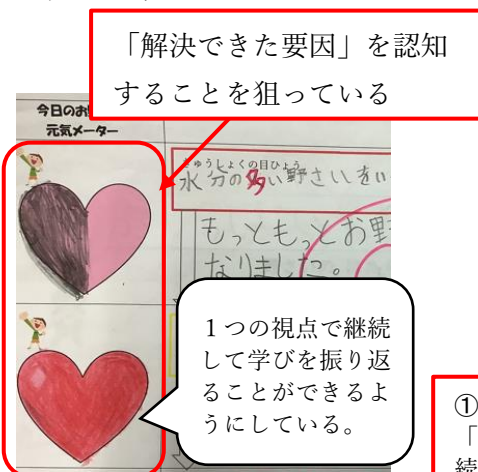


【振り返りシート】

児童の振り返りシートに教師が見方・考え方を価値づけるコメントをする。

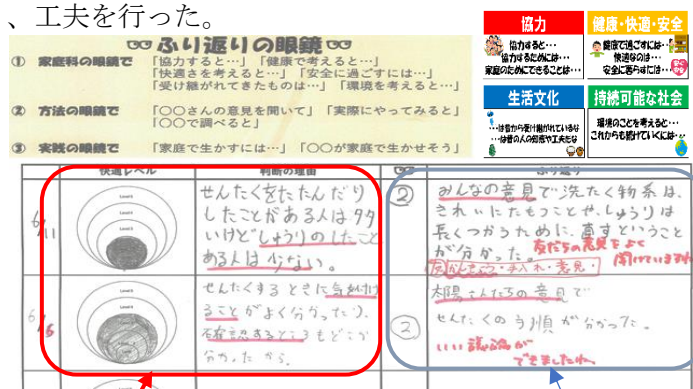
② 児童の課題（目標）に沿った振り返り方の工夫

視点3①で示した「メタ認知」は、一般的に10歳前後に大きく発達すると言われている。そのため、未発達段階である小学校低学年から中学年の児童は、学び方や学びの姿の振り返りの素地作りが大切であると考え。そのため、低学年用と高学年用の振り返りシートを用意し、発達段階に応じて使用するようにしている。低学年用の振り返りシートでは、振り返りの内容を焦点化し、児童自身が視点をもって本時の学びや学び方を振り返る習慣を促すようにしている。高学年では、①自己の変容 ②解決できた要因 ③家庭に生かせることの3つの視点で児童が学びを振り返ることができるよう、工夫を行った。



【低学年の振り返りシート】

1つの視点で継続して学びを振り返ることができるようにしている。



①自己の変容
「快適レベル」という視点で継続して振り返りを行い、学習問題の達成度をメタ認知する。

②解決できた要因
③家庭に生かせること
「見方・考え方」「学習方法」「家庭に生かせること」の中から、自分に合ったものを選択する。

【高学年の振り返りシート】